

2005年度(平成17年度)第1回理事会(次期理事予定者との合同会)記録

日時：2005年(平成17年)2月5日(土)14:00~17:00

場所：八重洲倶楽部第2会議室

出席者：廣川信隆(理事長)、河田光博、柴田洋三郎、高田邦昭、山科正平(以上、常務理事)、井出吉信、木山博資、近藤尚武、菅沼龍夫、仙波恵美子、高野吉郎、竹内義喜、武田正子(以上、理事)、内山安男(監事)

陪席者：澤田 元、藤本豊士、脇田 稔(以上、次期理事就任予定者)、依藤 宏(幹事)、天野恵子、合力靖博(以上、口腔保健協会)

欠席者：大野伸一、正村静子、杉浦康夫、福本哲夫(以上、理事)、上田秀一(監事)、石村和敬、塩田浩平(以上、次期理事予定者)、中河志朗(次期監事予定者)

・理事長挨拶

国際解剖学会議の成功と世界の解剖学を先導する日本の立場にも拘わらず、国内的には種々の困難が存在する。まず、学会としては事務センターの破産があったが、幸い大きな被害はなく、事務局も無事口腔保健協会に移ることができた。次に科研費審査委員推薦窓口の学術会議が改組され、科研費も今後変わってゆくものと思われる。研究者育成の観点からは、C B Tや研修義務化には問題があると考えられる。この様な状況の中で学会の存在意義を発揮してゆくにはまとまっているいろいろな面から努力してゆく必要がある。3月末までの任期だが、皆様のご協力で努めてゆきたい。

・議事録署名人の選任

議事録署名人として、木山博資、竹内義喜両理事が選任された。

・会議記録の確認

2004年度(平成16年度)第3回理事会記録、同摘録、同議事録(案)

・報告事項

1. 庶務報告(高田庶務担当理事)

(1) 平成17・18年度役員選出選挙結果

選挙管理委員会による標記選挙開票結果の報告がおこなわれた。なお、内山安男大阪大教授は理事と監事の両方に当選したが、規定により理事に就任、監事には次点の中河志朗鹿児島大教授が繰り上がることになった。関東支部では第5位に同点者が2人だが、年長者を優先する規定により澤田元横浜市立大教授が、また中国・四国支部では、福本哲夫山口大教授および次点第1位の佐々木和信川崎医大教授から、辞退の意向が出され、次点順位第2位の石村和敬徳島大教授がそれぞれ理事に就任することになった。なお、この役員選挙に関し、各ブロック選出の理事と、全国からの選出の監事をきちんと分け、分かりや

すくすべきであるとの意見が出された。

(2) 科研費審査委員候補者選出選挙結果

選挙管理委員会による標記選挙開票結果が報告された。

(3) 賛助会員入会・寄付申込書について

前回の理事会において要望の出た標記申込書が提示された。なおこの申込書は全国の解剖学教室等に配布するほか、ホームページにも掲載し、ダウンロードしての使用が可能になる予定である。

(4) 解剖実習における化学物質過敏症の報道について

標記に関する週刊誌記事についての報告がおこなわれた。解剖実習中の化学物質対策に関しては次期執行部への重要な引き継ぎ事項と考えている旨、発言があった。

2 . 編集報告 (柴田編集担当理事)

(1) 解剖学雑誌および A S I 刊行

両誌 7 9 巻 4 号を同時発刊、発送した旨、報告があった。

(2) 学会ホームページ (H P) について (この項は高田理事より)

事務センター破産後、標記 H P は情報技術委員長辰巳治之札幌医大教授により、仮運用されているが、今後運用の主体を口腔保健協会に移行してゆくことで調整中である旨、報告がなされた。

(3) その他 第 1 6 回国際解剖学会議の「京都宣言」を A S I に、その和訳を解剖誌に掲載することが報告され、和訳は近藤尚武理事にお願いすることになった。 A S I 電子ジャーナル版について学会事務が口腔保健協会に移ったことに伴い、会員番号が変更になったので、ログイン I D、パスワードも変更になる予定である旨、報告がおこなわれた。

3 . 企画・渉外報告 (河田企画・渉外担当理事)

(1) 第 1 1 0 回日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

大谷修会頭よりの報告書をもとに説明がおこなわれた。

(2) 平成 1 6 年度日本解剖学会奨励賞審査結果

応募者 3 名の中から投票により将来性を期待して受賞者 2 名を選考した旨、報告がなされた。受賞者は群馬大学松崎利行氏 (組織学) 和歌山県立医大田村志宣氏 (発生学) である。なお、この奨励賞については例年応募があまり多くなく、その対策について年森清隆奨励賞選考委員会委員長より、意見書が提出された。常務理事会ではこれを受けてワーキンググループを作る等により、さらに策を練って今後役に立てる旨の報告がおこなわれた。

(3) 平成 1 6 年度日本解剖学会解剖組織技術士功労賞申請状況

平成 1 6 年度は申請が無かった旨、報告がなされた。

(4) 第 4 回アジア・太平洋国際解剖学会議 (A P I C A) について

2005 年 9 月 7 ~ 10 日トルコ クサダシで開催される第 4 回 A P I C A について、会長の一人 Muftuoglu 氏が急逝した旨、連絡があった。日本解剖学会としては引き続きバックアップをしてゆきたいが、理事の方々にも力添えをお願いしたい旨、要請があった。

4 . 会計報告 (山科会計担当理事)

(1) 支部収支報告

全国 6 支部の支部学術集会の収支報告がおこなわれた。

(2) 第 1 0 9 回日本解剖学会総会・全国学術集会収支報告

井出千束会頭よりの報告書に基づいて報告がおこなわれた。

(3) 第 1 6 回国際解剖学会議収支概要報告

(4) 平成 1 6 年度決算書概要報告

最終的な決算書が作成中であるので、その概要に関して資料を基に説明がおこなわれた。

・ 審議事項

1 . 科研費審査委員候補者推薦 (情報提供) について

科研費審査委員候補者推薦委員会作成の候補者案が報告され、審議の結果、原案どおり承認された。

2 . 平成 1 7 年度永年会員推薦

候補者一覧が提示され、原案どおり承認された。

3 . 申請による学術評議員審査

申請の出された 1 2 名のうち、申請書類提出の遅れた 3 名は次年度審査とされ、9 名が今回の審査対象となった。この 9 名のうち、2 名は会員歴が規約に定められた 1 0 年に満たず、この規定を満たす来年度に審査するのが適当と決定された。残る 7 名について、理事による可否の投票がおこなわれ、5 名が過半数の得票を得て、学術評議員会・総会において審議されることになった。

4 . 学術評議員選出規約の改訂

現行の選出規約について、不備や運用上の不具合が発見されたため、改訂案が提出された。審議の結果、改訂案は一部文言の修正の上承認され、総会に諮られることになった。

5 . 次期理事会への申し送り事項

今回の理事会で検討することになった。この件に関連し、支部長への申し送りとして、今後事務局での人事異動の把握が学会事務センターの頃に比べると困難になるので、支部長の先生が気を配ってくれるよう要望があった。これに対し、関東支部長より、関東支部は人数も多く、把握が難しい。支部長にメールアドレスのリストを分けて欲しいとの発言があった。これに対しては、メールアドレスは把握できているのが会員の約 6 割で、うち約 1 0 0 人はそのアドレスに送信しても戻ってくる状態で、その把握自体が今後の問題点であることが指摘された。